

2024年がスタート ～天高くのぼる1年に～



明けましておめでとうございます。今年は^{たつどし}辰年です。「龍」は十二支の中で唯一想像上の生き物で、昔から「龍が現れると何かおめでたいことが起きる」「願いを叶え、物事を良い方向に運んでくれる」と考えられていたといひます。令和6年は山前小創立150年の大きな節目の年でもあります。子供たちが、目標や理想に向かって、龍のように天高くのぼるような年になればと願っています。保護者・地域の皆様、本年もどうぞよろしくお願いいたします。



「育成を目指す子供像」の実現を目指して

4月にお知らせしたとおり、今年度は「自信をもって発表できる子」「友達の発表に対して自分の考えをつなげられる子」を「育成を目指す子供像」に掲げ、全ての教育活動を通して全職員で重点的に取り組んでいるところです。2学期末には、職員間で実現状況を確認・共有するとともに、今後の取組について協議しました。その様子をお知らせします。ご家庭でもお子様と話題にいただければ幸いです。(以下は、職員自己評価から)

	「自信をもって発表できる子」	「友達の発表に対して自分の考えをつなげられる子」
主な取組	・「がじゃいも」の雰囲気づくり。まず担任が児童の意見を受容するよう心掛け、どの授業でも友達の発表を受容的に聞けるような学級づくりに努めた。 ・友達が話す時に、話し手に体を向けて聞くこと、反応しながら聞くことを指導した。 ・友達の発表を聞く良い態度が見られたときには大いに褒めた。 ・朝の会で行うスピーチでは、楽しく取り組めるように、テーマの決め方ややり方を工夫している。 ・少人数グループで考えを伝え合わせてから、発表させている。 ・自分の考えを表現することが難しい児童には、友達の考えを伝えられるようにした。 ・発表する前にノートに書かせたりペアで確認させたりするなど、段階的な指導をする。 ・机間指導で「いい意見だね」「発表してほしいな」と声を掛ける。	・発表する子だけで授業が進むことのないよう、友達の考えをつなげさせるように心掛けた。 ・ハンドサインの活用により、発表できない児童も意思表示で参加できるようにする。 ・話し合いたくなるような学習課題や発問を工夫した。 ・「〇〇さんと同じで…」「付け足しで…」など話型や「友達の意見につなげる言葉」を提示、指導した。 ・友達の意見に良いつなげ方をした時に、その場で大いに称賛した。 ・「〇〇さんは口口と言っていたけどどう?」「別な言葉で言う?」「どうして?」と意図的に問いかけ、お互いの考えを知ったり深めたりできるよう努めた。 ・教師と児童のやりとりが一問一答にならないように心掛けた。 ・児童が発表した際、「同じ考えの人は?」「付け足しはある?」と全体に投げかけることで、他の児童の発表を促した。
成果	・どの学級にも「まちがいOK」の温かい雰囲気があり、安心して話せるようになっている。子供から「間違えてもいいんだよ」という声が聞かれるようになった。 ・進んで発表しようとする児童、自信をもって発表する児童が増えた。 ・発表の声が1学期よりも大きくなり、発表内容を共有できるようになった。 ・ペアや少人数では、自分の意見を伝えられるようになってきた。 ・学級で決めたハンドサインを使うことで、進んで発言することが苦手な児童が、友達の意見に対して意思表示できるようになった。 ・普段あまり発表することのない児童が、道徳の時間に、挙手して自分やグループの考えを発表することができた。友達と協働して問題を解く中で、計算力が向上した。	・「〇〇さんの意見に付け足しで…」「〇〇さんと同じで…」「似ているけど…」「少し違って…」などと発表する姿が見られた。 ・発表を聞いて、「まだある!」「それに付け足したい!」と子供たちから声が挙がるようになった。 ・道徳科の授業で、意見をつなげられる児童が増えた。 ・友達の意見をよく聞こうとする態度が育っている。 ・子供たちから自然に「つなげる言葉」が出るようになった。 ・ペアやグループ活動でも、意見のつなげ方を意識した話し合いが見られるようになった。 ・ハンドサインを示しながら自分の意見を表明している。 ・ハンドサインを出しているか、児童同士が見合っている。
課題	・発表するときの声の大きさ(聞き手に聞こえる声で)。 ・高学年ほど、積極的に挙手や発表する児童が限られている。 ・少人数では活発に交流できるが、全体となると声が小さくなって自信をもって発表できない児童がいる。 ・聞き手を意識した分かりやすい説明や身振り手振りを交えて伝えるなど、さらにレベルの高い発表を目指したい。 ・自信をもって発表するには、問題を解ける学力を身に付けることが重要。日々の学習で児童が確かな学力を身に付けられるよう、授業力を鍛えていきたい。	・自分の考えをしっかりとめるようにする。 ・不完全でも自分の考えをノート等に表出させることが大切。 ・間違いを受容する「がじゃいも」の学級づくりを継続する。 ・教師のコーディネート力を一層高めていく。 ・教師の指示がないと意見を伝えるだけの活動になってしまっていることがあるので、引き続き指導をしていく。 ・教師が児童を意図的に指名して発表を求めればできるが、自分から他者と比べて話せる児童は少ない。 ・意見を聞いて自分の考えがどう変わったのか、目を向けさせたい。

◇5年生社会科見学

1月21日(火)に5年生が社会科見学に出かけました。次世代型路面電車(LRT)の乗車体験と県庁、花王栃木工場を見学してきました。充実した時間を過ごすことができました。



◇真岡市小学校理科研究発表会

1月11日(木)に真岡市科学教育センターで、真岡市小学校理科研究発表会が行われました。本校からは5年生4名が代表として参加しました。

発表内容は、「飛べ！アルソミトラ」。アルソミトラ(ヒョウタンカズラ)の種子に興味をもち、アルソミトラ型の飛行機の模型をつくり、効率よく飛ぶ形状について研究したものを発表しました。研究の成果を立派な態度で伝えることができました。これからも日常にある疑問をテーマにして、様々なことを探究してほしいと思います。



◇山小ギャラリー

職員室前の廊下は、子供たちの作品を掲示する「山小ギャラリー」です。習字や絵などの作品を掲示しています。来校の際には、ぜひ、子供たちの作品をご覧ください。



大谷翔平選手からグローブが寄贈されました！

メジャーリーガーの大谷翔平選手から全国小学校にグローブがプレゼントされていますが、本校にも1月12日に3つのグローブが届きました。グローブと一緒に「このグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。」「野球しようぜ 大谷翔平」などのメッセージも同封されていました。

大谷選手の思いを受け継いで大切に使いしていきたいと思います。大谷選手、素敵なプレゼントありがとうございました。

グローブを手にとる4年生

